

## 会 議 録

会 議 名	平成 30 年度東浦町パートナーシップ推進事業補助金審査会	
開 催 日 時	平成 30 年 5 月 13 日（日） 午後 2 時から午前 4 時 30 分まで	
開 催 場 所	勤労福祉会館 会議室 2	
出 席 者	委員	吉村輝彦委員長、久米弘副委員長、牧野清光委員、戸張里美委員、早川信之委員
	事務局	長坂課長、筒香係長、柿野主事
	申込団体	東浦地域ねこの会、ひがしうら映画プロジェクト
議 題	<p>1 平成 30 年度東浦町パートナーシップ推進事業（公開プレゼンテーション審査）</p> <p>（1）審査事業「人と猫が共生できるまちづくり」</p> <p>（2）審査事業「町制 70 周年を記念とする市民映画の制作」</p> <p>2 審査結果</p> <p>3 講評、総括</p>	
非公開の理由		
傍聴者の数	10 名	
審 議 内 容 （ 概 要 ）	<p>議題</p> <p>1 平成 30 年度東浦町パートナーシップ推進事業（公開プレゼンテーション審査）</p> <p>平成 30 年度東浦町パートナーシップ推進事業申込団体からプレゼンテーションにて事業の説明を行った後、委員から質疑、これに対する応答が団体よりあった。</p> <p>なお、各団体の質疑応答は下記のとおりである。</p> <p>（1）審査事業「人と猫が共生できるまちづくり」 （委員）</p> <p>現在、どこで何人くらい活動しているのか。また、収支予算書を見ると、手術費がかなり安くなっているように思うが、他からの補助などがあるのか。</p> <p>（東浦地域ねこの会）</p> <p>現在の中心メンバーは 3 名で、この 3 名で活動の軸をつくっている。3 名の外に餌をあたえるボランティアが 3 名いる。</p> <p>現在、私たちが手掛けているのは、岡田川にある橋のところで、猫に対する苦情が多く、野良猫の世話をしていた方が亡くなったため、小学校の PTA から大丈夫なのかという声が挙がっていたとこ</p>	

るである。

手術費用については、一部負担となっている。協力動物病院がある程度負担してくださっているのと同時に、東浦地域ねこの会から雌猫が6,800円、雄猫が2,560円の補助を出している。残りの5,000円については、申し訳ないが地域の方にご負担いただいている。

(委員)

地域でも捨て猫による鳴き声やフンが問題になっている。緒川をモデル地区として実施するというので、本来であれば地域住民が負担すべき5,000円を緒川区として補助することで協力していきたいと考えている。

メンバーが3人と少人数であることを懸念しているが、そこは立ち上げたばかりであるので、徐々に増やしていけばよいと思う。

(委員)

収支予算書を見ると、会費が20万円となっている。会費が高額で、東浦地域ねこの会のメンバーの負担が大きいのではないかと感じる。会費について説明いただきたい。

また、いずれ、パートナーシップ推進事業の30万円の補助はなくなっていく。補助金がきれた後の活動の見通しをききたい。

(東浦地域ねこの会)

まず、会費についてだが、月々2,500円の12ヶ月払いで、一人あたり30,000円となる。今のメンバー3名と協賛メンバーが2名いる。随時協賛メンバーも集めていきたいと思っているため、20万円を目標としている。

このパートナーシップ推進事業が終わった後については、他市町村と同様に、それまでに東浦地域ねこの会としての実績をつくり、猫の死体処理に係る費用を不妊去勢手術費用の補助として充ててもらえないか、町の方から不妊去勢手術の費用を出してもらえないか交渉したい。

もし町から補助が出せないということであれば、企業に協力をお願いし、住民の皆さんからの募金や声により活動が継続していくことができるよう努力していく。

(2) 審査事業「町制70周年を記念とする市民映画の制作」

(委員)

収支予算書には寄付金が100万円となっている。資金集めが課題であると思うが、どのように集めようとしているのか。あるいはどのようにアプローチしようとしているのか。

(ひがしうら映画プロジェクト)

東宝シネマズという映画館があるが、そちらに上映できるようアクションをかけている。東宝シネマズで上映できるとなると皆さんの関心度も高まる。これをやるからには企業メリットを明確化していかないといけないと思っている。企業メリットが明確にできれば、無理ではない数字であると思う。

また、動画をつくりながら、企業の PR ビデオを流し、映画を上映したりするという工夫をして、寄付金を集めていきたい。

(委員長)

収支予算書について、補助金の部分についての明細は書かれていても、事業全体については、積算の基礎の欄に記載がないため、積算の根拠がわからない。例えば監督料について、全体で 120 万円を予定しているが、具体的にどういうものに支出し、その中で補助金をどこに充てるのかわからないため、判断できないところが多い。

また、寄付金を集められなかった場合はどうするのか。反対に寄付金を多く集めることができたのならば、そもそも補助金を出す必要がないのではないか。言い換えれば、なぜ町の補助金が必要なのか。補助金の割合は 2 割程度になるため、この事業をパートナーシップ推進事業として実施したと、どこまで言ってよいのかを説明してほしい。

(ひがしうら映画プロジェクト)

予算については、ほとんど監督のギャランティ、制作費である。その他は、道具をつくったり、レンタカーを借りたりするための費用である。カメラについては、監督の持ち出しであるため、監督の製作費に含まれている。このような答えでよいだろうか。

(委員長)

どこの部分にこの事業の補助金を充てるのかが分からない。補助金の 30 万円の内訳もだが、他の部分についても、どこに使うのかが計画書としてよく分からない。

(ひがしうら映画プロジェクト)

他の部分については、ほとんど監督のギャランティになってしまう。スタッフも監督の方でやりやすいスタッフを選んでもらう等、一括してお願いするため、采配は監督にお願いするかたちになる。ギャランティの内訳は、私たちが関与しにくいところではある。

(委員長)

30 万円が出ないと、この事業は成り立たないものなのか。例えば、寄付金が予定している 100 万円ではなく、300 万円くらい集まったとしたら、補助金はいらないのではないか。補助金を入れて実

施する意味は何か。

(ひがしうら映画プロジェクト)

30万円という金額よりも、行政とパートナーシップを組みたいと思っている。行政と一緒に実施するメリットは、企業等からの協力を得やすい体制になることだ。その部分を狙っているところではある。

また寄付金が集まらなかったら、自腹をきるしかない。仮に寄付金集めがうまくいって、100万円以上集まったとしたら、次に映画をつくりたいと思っている人のための基金にしたいと思っている。

(委員長)

何のために映画をつくるのかということについて聞きたい。私の理解では、タカハマ物語は、あくまでも映画づくりは手段であり、目的ではない。目的が何かというと「人づくり」が目的であった。

映画づくりが目的ではないという点で、基本的には、どれだけ東浦の人で実施するかが大事であると思う。監督やスタッフを外からもってくるといわれると、映画づくりが目的であるように見える。どこまでプロフェッショナルがやるか、どこがアマチュアでやるかの線引きがあるにしても、何を目的として実施するのか軸として持っておかないといけない。そうでなければ、お金を出せば外注できるのではないかという話になりかねない。

(ひがしうら映画プロジェクト)

東浦にはいろいろ頑張っている人がいる。そういう人たちを紹介していきたい。東浦町に外から来てもらうということもありだと思っている。オーディション等はいろいろな人から注目していただいているが、逆に東浦を知ってもらえる。大学のゼミ生にも来てもらい、若い人に東浦を見てもらうことが大事であると思う。そういった点で、多くの人に関わっていただければと思っている。

また、外のスタッフは最小限のメンバーに抑えている。作品にある程度映像としての担保がないと観てもらえなくなってしまう。そこは担保しつつも、基本的には住民のスタッフで動かしていくというスタンスは変えていない。映画をつくるというのはあくまでも手段であって、今の1年、2年のまちづくりではなく、10年、20年のスパンで取り組んでいきたいと思っている。これは種まきの事業であり、やっても無駄だと思われるかもしれないが、何もしないよりはよいと思うし、将来、いろいろなところで活躍してくれる子どもたちが増えればよいと思って考えた事業である。

(委員)

目的のところに、映画制作をとおした地域おこしと書いてある

が、映画でまちおこしができるのかが疑問である。

どこまで東浦の中を知っているのか。掘り下げることができるのか。みんなが現在行っている活動等を撮って終わりそうな気がするが。

(ひがしうら映画プロジェクト)

撮影については、大学生にドローンを体験してもらおうということもある。

またアーカイブとしても残しておきたいと思っている。2年後あいち健康プラザのジムが取り壊されると聞いているが、映像として残しておきたいと思っている。ただ活動を撮るということよりも、様々な人にいろいろな経験をしてもらうことが大事であると思っている。コミュニティのことを否定するつもりはないが、コミュニティだけというよりは、東浦町全体で、東浦町以外の方にも関わっていただくことも大事であると思っている。そこら辺の交流を創出していきたいと思っている。

(委員)

報告会で17名が中心メンバーとして活動に取り組んでいると聞いたが、東浦町の住民は何人くらいの協力者を予定しているのか。

また、70周年との関係についての説明を伺いたい。

(ひがしうら映画プロジェクト)

関わる人数については、想定ができないというのが正しい答えである。映画をつくるにあたり、面と面との付き合いが必要であると思っているため、記録係として参加してもらったり、子育て団体にも出演のお願いをしていったりする。例えば、撮影日のスタッフだけでも多くの人が必要となってくるので、そう考えるとすごい人数になるのではないかと思う。17人で全部実施しようとは全く思っていない。本当にスポットだけでもかかわってくれる人を増やしていくことが課題だと思っている。

70周年について、東浦町が記念事業を実施するということだが、事業を見ていると、もう少し若い人が関わるができる事業があったらよいと思った。映画づくりのように楽しいことであれば関わってくれるのではないかと思い企画を試してみた。

## 2 審査結果

事業名	団体名	得点 (点)	交付額 (円)
人と猫が共生できるまちづくり	東浦地域ねこの会	81.6	300,000
町制70周年を記念とする市民映画の制作	ひがしうら映画プロジェクト	59.2	240,000

## 3 講評、総括

委員5名より下記のとおり講評があった。

(委員)

税金の使い方について、十分意識して事業を実施してほしい。

(委員)

両団体ともがんばっていただきたい。

(委員)

ひがしうら映画プロジェクトについては、事業が見えなくよくわからなかった。しっかり説明できるようにしてほしい。

また、東浦地域ねこの会については、地域としっかり連携してがんばってほしい。

(委員)

これからが大変であると思う。事業報告を楽しみにしている。がんばってほしい。

(委員長)

さきほど他の委員が厳しい言い方をしたが、いろいろな人がいろいろな受け止め方をする。できるだけ多くの人たちが共感を得られるように見せていくということも大事であると思う。

今年度、しっかり実績を残すことで、しっかり事業ができる団体であるということもわかるし、そのあとの波及効果も出てくる。

鍵は、自分たちの活動だけではなく、いろいろな人たちがいい事業だと思えるよう、場面場面で見せ方を気にしていけるとよいと思っている。自分たちだけの活動であれば、自分たちだけで活動内容をわかっていればよいが、パートナーシップ推進事業を通じて実施するということは、他に説明し、納得させることができるということが大事であると思っている。

逆に言えば、この金額は期待の金額であると思っているので、ぜ

	<p>ひ頑張っしてほしい。</p> <p>また、地域ねこの会の取り組みなどは、いきなり行政が税金を投入して実施するのではなく、ある種実験的な取り組みをしながら、実施していくものだ。この事業が本当にうまくいくのか、うまくいくためのノウハウがどこにあるのか を含めて一緒に行政と実施してほしい。そのノウハウを着実に残していくためにも、行政と常に連携しながら、一年目からしっかり活動していくことが大事である。</p> <p>地域で、できることとできないことがある。また地域の人が同じようにみんなできることと、地域の人々が少しずつそれぞれのやり方でやれることがあるかもしれない。強い思いをもって協力してくれる人もいるかもしれないし、ちらっと気にかけてくれる人もいるかもしれない。あまり焦らずに柔らかく活動していくことがとても大事だと思っている。</p> <p>これからのことを期待して、私の講評としたいと思う。今日は皆さんありがとうございました。</p>
--	---